

研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

申請番号： 20-041

試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

- ・研究課題名： 手術治療を行った進行口腔がん患者の術前因子に基づく術後機能および入院期間予測
- ・目的： 口腔がんは高齢者に多くまた頭頸部癌の亜部位のなかで最も数が多い。局所進行口腔がんに対する根治治療は外科的切除であり、さらに組織学的ハイリスク症例では放射線などの後治療が必要となる。それらの集学的治療により術後嚥下機能は著しく障害を受け経口摂取が困難となる。日本は世界一の高齢国家であり、がんが死因の第一位である。また亡くなる人の約8割が病院で亡くなっており有効な病床運営に支障をきたしている。さらには日本の世帯構成は平成の30年間に大きく変化し高齢者の約6割は独居あるいは夫婦のみの世帯となっている。つまり、当科において口腔がん患者に対して根治治療を行った結果、経口摂取が困難となり自宅への退院が困難な症例が増加している現実がある。現在国は、早期退院に関わる介護医療連携のための政策を推し進めている。当科における口腔がん治療において治療前より退院困難な症例を予測できれば、早期より退院連携が可能になり効果的な病床運営を行うことができる。本研究は、頭頸部癌における術前の全身状態（各種炎症マーカーと栄養状態）や世帯構成の関連性に注目し、機能予後および入院期間の相関を検討することを目的としている。
- ・研究期間： 臨床研究IRB承認日～2026年3月31日
- ・研究対象： 2007年4月1日～2023年3月31日

利用し、又は提供する試料・情報の項目

： 患者の年齢、性別、体重(変化)、身長、PS、Charlson Comorbidity Index、基礎疾患、嗜好、既往歴、家族構成および介護因子、病理検査、血液検査（栄養指標、炎症性マーカー）、画像検査を用いた腫瘍サイズおよび筋肉量、病期、治療内容(外科治療法、後治療、再建手術、再手術)、術後合併症種類、術後合併症グレード（Clavien-Dindo分類）、せん妄の有無、摂食状況(経口摂取、食事内容、経管栄養)、気道管理法、入院期間、退院先情報、予後情報。

利用する者の範囲

： 埼玉医科大学国際医療センター 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科 教授 中平 光彦
埼玉医科大学国際医療センター 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科 客員教授 菅澤 正
埼玉医科大学国際医療センター 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科 教授 蝦原 康宏
埼玉医科大学国際医療センター 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科 助教 井上 準
埼玉医科大学国際医療センター 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科 助教 榎木 祐一郎

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

： 埼玉医科大学国際医療センター 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科 教授 中平 光彦